

1. 総括

近年日本列島で多くの自然災害が発生し、地震や台風、豪雨等で甚大な被害が生じている。かすみ会においても継続して災害対策を進めており今後ともさらなる対策の充実を図っていききたい。また、特に入所施設を中心に近年インフルエンザ等の感染症も大きく運営に影響することとなっていたため感染症対策に努めていた結果、インフルエンザの罹患については防ぐことが出来た。しかしながら年度末以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、大きく運営が左右されることとなった。幸い各事業所とも施設内の感染には至っていないが、新型コロナウイルスへの対応について、現時点での対応とともに長期的な視点をもった対応をも迫られている。

一方、社会福祉法人として地域のニーズを効果的につかみ、具体的な支援に結び付けていけるよう、地域の関係機関に対し、情報収集を継続した。

2019年度も、生活環境への奉仕作業や行事等への応援など多くのボランティアの方にかかわっていただいている。地域、関係の皆様との温かい応援に改めて感謝申し上げますとともに、地域の皆様とのつながりを大切に、共生社会の実現にさらに取り組んでいきたい。

2. 事業の総括

(1) 新型コロナウイルス感染予防対策

- ・令和2年2月27日に各事業所より利用者・家族・サービス事業所等に対策の発信をした。利用者の外出・帰省中止、家族の面会中止、3月以降の期間も随時連絡。
- ・ボランティア訪問等の中止を決定する。
- ・国県等の情報収集を行い、保健所等と連携しながら対応について協議を継続。

(2) 社会福祉法人としての取り組み対応状況

①情報発信

- ・広報委員会を開催し、広報誌かすみ会だより（春夏号及び秋冬号）を発行。
- ・ホームページ、ブログ等のネットワークを活用し、情報発信を行った。
- ・ギャラリー、交流施設利用の地域への広報を行った。

②地域における公益的取り組みの推進

- ・かすみ会まつりの実施（令和元年6月8日）
地域の方との交流事業として、イベント、模擬店、ギャラリー展示、後援会主催のバザーなど各種催しを行い、地域住民の方々等多数お越しいただいた。かすみ会まつりを通じて障害のある方への理解を促進し、また地域住民の方々との交流を深める中で地域の福祉課題を把握し、さらなる地域貢献を果たせるよう取り組む。
- ・施設実習の受け入れ等の地域の福祉人材の養成
- ・障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供
- ・地域への人権学習の実施（10/27人権まちづくり懇談会 講師 桂田所長）
- ・交流施設こもれび、グラウンドの地域開放

(3) 人材の育成と虐待防止

①理念、倫理綱領、職員行動規範の再徹底

法人理念唱和を継続、NHKの特集番組「この子らを世の光に～共に生きる社会を目指して」を新人研修で視聴するなど理念のより深い理解と浸透を図った。

②外部研修・見学の実施

(i) 虐待防止の見識を深めるための研修参加

(ii) 専門性、支援技術向上の研修参加

③新人研修における虐待防止の徹底

新人研修やフォローアップ研修により、虐待防止に関する基本的な理解と実際の支援場面での対応を徹底した。

④滋賀県障害者差別ない共生社会づくり条例の理解

条例内容を職員会議等で職員に伝える時間を持ち、あらためて差別解消法の考え方（社会モデルや合理的配慮等）を学ぶ時間を持ち共有を図った。

⑤虐待防止委員会の開催

各事業所の取り組みの報告を行い委員の方より評価と意見をいただく。

(委員の意見)・権利擁護意識を忘れてはならない。また、権利擁護を大切にすることは尊敬される。

- ・支援について常に立ち止まって考えなければならない。
- ・職員は「施設とは、支援の難しい人がその人らしく、人間らしく生きていける場所である。」とあって支援してほしい。
- ・職員さん個人のストレスがどこに向いているのか気遣うことも大事。
- ・研修内容を報告し、学んだことを現場に取り入れてもらいたい。
- ・対応が難しい人ほどみんなで支援することが大事。

⑥虐待防止役職員研修の実施（同じ内容で同日2回の講義。）

日時：令和元年11月14日（木）「15:30～17:00」「17:30～19:00」

場所：かすみ会交流施設こもれび

講師：太田正則 氏

〔テーマ〕『落穂寮での虐待防止への取り組みについて』

内容：研修通して他施設の取り組みを知り、かすみ会での虐待防止の実践に活かしていく。

(学んだこと)・情熱をもって取り組む姿勢と勇気を学んだ。

- ・その人に寄り添い信頼関係を築いていく支援の大切さの再確認。
- ・利用者の特性を知り、その人にあった支援を行うことの大切さ。
- ・力で解決するのではなく、問題行動の背景を探り、解決する姿勢。
- ・問題行動を起こさせないような環境づくりの大切さ。
- ・チームによる支援、情報共有の大切さ。統一した支援の大切さ。
- ・記録の重要性。

(4) 防災関係

- ・防災機器の整備(非常用ガス式発電機2台購入。かいぜ寮家族の会より助成金を400千円)

- ・かいぜ寮避難通路手すりの設置（令和2年1月）、防災倉庫設置工事完了（令和2年2月）
- ・防災・防犯対策委員会は、開催できなかった。

（5）改修

- ・グループホームサンコスモ滝井改修工事完了（令和2年2月29日）
サンコスモ滝井の1階物入れとギャラリーの倉庫を接続して1部屋に変更し、薬の管理や日用品の管理、職員の執務が出来るようにした。

（6）公共下水道接続工事

工期を令和2年2月10日～3月23日とし、かすみ会（相談支援事業所かいぜ寮除く）全事業所の工事を実施した。

（7）物故者法要（令和元年11月9日）

- ・かすみ会交流施設こもれびにて実施。物故者家族、利用者、家族、役職員 合計81名が参加。一人ひとりの命の尊厳を守る法人行事として継続する。

（8）職員の安全・健康を守る取り組み

- ・働き方改革について職員へ周知するとともに、出退勤時間管理方法について、試行期間を経て、タイムカードを導入した。

（9）苦情相談日の継続実施

- ・苦情を大切にすることを踏まえて、月一回の相談日を設け第三者委員3名の方に交替で対応いただいている。交流施設「こもれび」を利用し、相談者のプライバシーを確保した中で行い、第三者に話を聞いてもらえる場として利用者の方にも寄与している。3月の実施は見合わせた。

（10）新規事業の検討（グループホーム、生活介護）

新規グループホームについて、協議書提出も不採択。県からは、入所施設の敷地内でグループホームをつくれるよう条例を変えるのは現状では難しいと言われており、土地については別の場所を探していただくことが一番すっきりすると言われており、また、圏域においては、学校から卒業する重度の方や行動障害のある方の進路先としての日中活動の場が不足すると言われており、生活介護の検討を継続している。

（11）役員室の設置、職員宿舎の改修、相談事業所の職員宿舎への移動等の検討

- ・事務所横の部屋を役員室とし、現相談室を寮長室に変更、さらに現相談室を移動し、職員宿舎の二部屋を一部屋に改修し、かいぜ寮相談事業所とする方向で検討した。

（12）創立30周年事業の検討

- ・かすみ会の創立30周年に際し、利用者、ご家族をはじめ、地域等関係の方々に感謝し、

ともに祝う。地域に根差した法人として、かすみ会を広く知っていただく。式典とかすみ会まつりを行い、30年の歩みを載せたパンフレットと記念品作成を検討している。

(13) 陶芸活動に係る賢愚窯を利用する焼成について

- ・社会福祉法人としての地域における公益的な取り組みに位置づけられるような地域の社会資源としての利用を検討し他法人の陶芸事業とも模索したが、具体的に進められなかった。

(14) 人材確保対策

- ・安定的なサービス提供及びかすみ会に期待されている事業の実現には、人材の確保と育成についての取り組みが最重要課題となっている。

(具体的取組状況)

- ・求職者用パンフレット ・チラシの作成 ・見学会の実施 ・就職サイトの活用
- ・ホームページにおける法人 ・事業所情報と求人情報の発信
- ・福祉人材センター主催職場説明会等への参画 ・保育実習等施設実習生への採用案内
- ・外国人等の多様な人材の受け入れ

(15) 安全運転に関する事

- ・令和元年度9月～12月に実施した令和元年度無事故無違反運動について、法人として取り組み、達成事業所として表彰を受けた。

(16) 自立支援協議会等

- ・湖東圏域自立支援協議会行動障害部会では、学校卒業後の日中活動の場の不足が訴えられている。また、圏域の高齢障害者の課題についての実態調査をしながら検討されている。今後は当事者家族も含めた意見を聞いていく予定とのこと。

3. 具体的事項

(1) 理事会開催（5回と決議の省略）と検討事項

令和元年 5月28日 社会福祉法人かすみ会平成30年度事業報告書について他

令和元年 6月14日 令和元年6月14日から令和3年6月定時評議員会の終結の時まで
理事長の選任について他

令和元年 9月26日 社会福祉法人かすみ会給与規程変更について他

令和元年12月18日 経理規程の変更について他

令和2年 1月30日 社会福祉法人かすみ会公共下水道切替道工事の契約について

令和2年 3月16日 社会福祉法人かすみ会令和2年度事業計画について他

(決議の省略)

(2) 評議員会の開催（1回と決議の省略）と検討事項

令和元年 6月14日 令和元年6月14日から令和3年6月定時評議員会の終結の時まで
理事及び監事の選任について他

令和2年 3月25日 社会福祉法人かすみ会令和2年度事業計画について他

(決議の省略)

(3) 監事監査の開催

令和元年 5月21日 平成30年度事業報告・決算報告について

(4) 安全衛生委員会の開催(11回と書類持ち回り)と検討事項

職場内巡視の実施(以降毎月実施)

平成31年 4月23日 ワークライフバランスの取り組み他

令和 元年 5月28日 環境改善(トイレ・休憩室等)他

令和 元年 6月25日 健康診断・ストレスチェックの結果と今後の対策他

令和 元年 7月23日 コミュニケーション(情報共有の進捗状況報告)他

令和 元年 8月27日 肩こり・腰痛予防他

令和 元年 9月24日 全事業所職場点検

令和 元年10月22日 感染症予防について他

令和 元年11月26日 姿勢と脳の覚醒について

令和 元年12月24日 ワークライフバランス(定時退勤、会議時間等の評価)他

令和 2年 1月28日 生活習慣の見直し(食習慣の改善)他

令和 2年 2月25日 運動促進(健康診断に向けてプラス1000歩運動の促進)

令和 2年 3月なし 今年度の振り返りと次年度の計画他(書類持ち回り)

(5) 第三者委員会・あんしん委員会の開催(2回)と検討事項

各事業所で討議したあと、委員会を開き、対策の助言をいただいた。

令和 元年 5月22日 第三者委員の任期変更(案)について

令和 元年 8月19日 利用者の対応と経過について

(6) 虐待防止委員会の開催(2回)と検討事項

虐待防止対策について、各事業所で話し合い、委員会でご意見をいただいた。

令和 元年10月24日 各事業所虐待防止対策報告

令和 2年 2月19日 各事業所虐待防止対策報告と年間スケジュール(案)他

(7) 事業管理会議の開催(7回)と検討事項

各事業所の責任者が事業の情報・状況・方針の共有を諮る為、話し合いを行なった。

平成31年 4月16日 事業計画の重点項目実施計画について他

令和 元年 8月27日 創立30周年記念事業について他

令和 元年12月26日 事業の進捗状況について他

令和 2年 1月27日 令和2年度事業計画について他

令和 2年 2月12日 創立30周年記念事業の企画について他

令和 2年 3月16日 令和2年度職員体制について他

令和 2年 3月23日 令和2年度かすみ会まつりの実施について他

1. 総括

かいぜ寮は、年度当初54名の定員に対し、48名（男性27名、女性21名）であった。年度途中の入所は男性が1名、退所は男性1名・女性2名で入院からの転院による退所が2名、入院後亡くなられた方が1名となっている。

利用者の状況は、全体として、高齢化、重度化により食事場面や入浴等で介助等個別対応が必要な方が依然として多い。

前年度はインフルエンザ感染症により施設運営が大きく影響を受けたため、感染防止対策を再確認し、緊張感をもって対応してきた結果、施設内のインフルエンザ感染症による集団感染は免れることができた。しかし、2月初旬からの国内の新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、その感染防止対策により、利用者の帰省や外出等を制限せざるを得なくなり、大きな影響を受けた。感染防止への対応をまずは第一としながらも、利用者がストレスをためないよう、その生活をいかに守っていくかが問われている。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 支援の質の向上を図る。

- ・個別支援計画は、利用者の意思を尊重して個々の強みを生かす計画書を作成した。
- ・利用者支援に必要な知識、技術を習得するため、研修計画に基づき、積極的に外部の研修に参加することにより、専門職として支援に臨むという職員意識が高まった。
- ・男女支援グループ会議でたとえ小さな支援課題でも共有し、お互いに意見を出し合い問題解決していく中で、職員個々に様々な気づきがあり、利用者本位の支援について、職員同士共有し、よりよい支援を考えようとする姿勢と意識が高まった。

(2) 身体状況や障害の特性に配慮した生活環境の整備をする。

- ・高齢・重度の利用者に対する対応は、利用者の障害特性を理解し、丁寧な対応と、居室の環境を整え利用者が快適に過ごせるよう配慮ができた。
- ・医務と連携して、個別の利用者の身体状況に応じて丁寧に介助出来るように情報交換しながら対応した。

(3) 働きがいのある職場づくりをする。

- ・職員の心身の状況を確認するとともに、職場での困りごと、要望等の聞き取りを行い、個別の状況に寄り添った対応ができるようにした。
- ・職場の現状把握のため、管理職が巡回を実施、職員への声掛けを行い、話しやすい雰囲気づくりを行った。

(4) その他の取り組み（感染症対策）

感染症対策を再確認し、勤務前の検温の指示や手洗い・消毒の徹底、状況により全員マスク着用を指示など、感染防止対策に努めてきた。一方、施設内で感染が起こった場合にも、その拡大を防止できるよう、嘱託医と相談の上、秋には抗インフルエンザウイルス剤の予防投与の対応についての文書をご家族に送らせていただいた。

また、利用者の清潔面から男女棟トイレにエアタオルを設置し、手洗いを指導した。

3. 事業・活動報告

(1) 日中活動

- ・サロンA班・サロンB班・療育班の3班で班内の一人ひとりに支援が行き届くようそれぞれの特性に配慮した活動を提供した。
- ・支援記録に各利用者のポイントとなる支援目標を提示し、支援目的に沿った対応が行えるようにした。

(2) その他

- ・利用者朝礼では、毎週、週の予定の確認や医務連絡、栄養士が食事に関する話をし、利用者から献立のリクエストを聞いた。また、月初めには誕生会を開催した。
- ・作品展示、出展
利用者の作品を、稲枝文化祭で展示した。また、ぴかつ to アート展に出展し、かいぜ寮から2名の利用者の作品が入選した。
- ・余暇支援
ドライブ・ビデオ鑑賞、折り紙、塗り絵、お菓子作り等
行事等外出支援

月	行 事
4月	滋賀県議会議員期日前投票(3日～5日) 海瀬町祭り(14日) 彦根市議会議員選挙期日前投票(17日～19日)
5月	彦根学園祭参加(19日)
6月	かすみ会まつり(8日)
7月	参議院議員選挙期日前投票(11日～16日)
9月	敬老行事外出(17日) 家族旅行 一泊(9/30～10/1)神戸方面 日帰り(10/1)岐阜方面
10月	三津町町民フェスタ(20日) レクリエーション(24日)
11月	稲枝文化祭(2日)、物故者法要(9日)、文化の集い(5日)
12月	ぴかつ to アート展(4日)、クリスマス会(25日)
1月	初詣(3日)、新年会(14日)

4. 共通の活動

(1) 苦情・事故対策

苦情・事故報告から、再発防止に向けて事故内容を分析し対策を講じた。

事故報告	5件	移動中の転倒2件 他害行動3件
------	----	-----------------

(2) 危機管理(防災・防犯)

- ①夜間想定の実験として夜間帯職員が少数の場合、一時避難所を設け利用者全員を集めてから、こもれびに避難する方法に変更した。
- ②反省として女子棟側非常口の段差と手すりが無いと危険という事で、手摺と拡幅を行った。

実施日	訓練内容
5月22日	通報・避難・消火
10月6日	通報・避難・消火(夜間)
11月10日	海瀬町消防訓練(火災)地域参加
11月21日	避難訓練(水害)
2月6日	消防訓練(消防署員による消火・救助方法等)

- ・水害の避難訓練は、女子棟側避難通路と男子棟側避難通路から、それぞれ手際よく「こもれび」への移動が出来ていた。
- ・海瀬町との消防訓練に参加し、消火栓や消火器の使い方等、地域と連携して対応にあたることの大切さを学んだ。

(3) 研修

新人職員研修、中堅職員研修等を受講することで、仕事への心構えや専門知識の習得を図った。介護保険と障害福祉の連携検討会に参加した職員から、「介護施設と障害者施設のそれぞれの持っている専門性を情報として持ち寄って支援にあたることの必要性を痛感した。今後も両者の垣根を無くし、連携を図って行くことを確認できた。」と好評だった。

虐待防止関係研修

月 日	内 容	場 所	人 数
11月14日	法人主催 施設内虐待防止研修	こもれび	全員
12月10日	虐待防止アプローチ研修	草津市	1名
12月16日	虐待防止・権利擁護研修	草津市	1名

人材育成

月 日	内 容	場 所	人 数
4月～	新人研修	施設内	1名
11月6～7日	新人研修	野洲市	1名
1月23日	フォローシップ力強化セミナー	大津市	1名

専門的研修

月 日	内 容	場 所	人 数
7月～2月	介護保険と障害福祉の連携検討会	彦根市	2名
6月～8月	強度行動障害支援者養成研修	大津市	3名
7月23日	災害時福祉支援	草津市	1名
9月11日	歯科保健推進研修会	甲良町	1名
9月26日	行動障害に関する研修	こもれび	3名
10月17日	介護技術研修	施設内	6名
11月7日	動作のサポートセミナー	草津市	1名

11月11日	労務管理セミナー	草津市	2名
11月19日	労務管理研修会	彦根市	2名
11月20日	看護職員情報交換会	守山市	1名
11月29日	サービス管理責任者更新研修	大津市	1名
12月19日	行動障害に関する研修	こもれび	3名
2月25日	湖東圏域栄養ケア研修会	彦根市	1名

(4) ボランティア

月 日	団 体 名 等	内 容
4月29日	天理教江東支部	除草作業
5月11日	家族の会	除草作業
5月29日	海瀬町新生会	除草作業
6月22日	みずほグランドゴルフクラブ	除草作業
10月29日	愛荘町秦荘日赤奉仕団	除草作業
12月14日	家族の会	棟内清掃
4月～3月	レイカディア米原校	剪定等環境整備

※家族の会 墓地清掃（各月）

(5) 実習・研修の受け入れ

びわこ学院大学2名、龍谷短期大学3名、京都文教短期大学4名、華頂短期大学2名の実習を受け入れた。

また、滋賀県総合教育センターの初任者経験者研修（特別支援学校）の現地研修で、8名を受け入れた。

5. 医務

(1) 通院・入院状況

		延人数															
		内 科	外 科	精 神 科	皮 膚 科	歯 科	泌 尿 器 科	整 形 外 科	神 経 内 科	呼 吸 器 科	脳 外 科	産 婦 人 科	眼 科	耳 鼻 咽 喉 科	救 急 外 来	そ の 他	合 計
H30	入院	6					2			2							10
	通院	145	22	10	22	79	56	13	3	32	10		41	18	11	11	473
H31	入院	5	3	1			2			3			1				15
	通院	79	18	4	16	63	34	9		17		5	32	21	2		300

高齢化が進む中、体調の変化に重点をおいて観察し、早期に医療へ繋げるようにした。

しかし通院治療では対応できない疾患が多く、点滴、投薬、検査、安静療養、更に手術が必要となり、入院治療を受ける利用者がのべ15名（内1名は内科、外科で4回入退院を繰り返す）

かえされ、入院中容態が急変し死去) おられた。入院中の利用者を支える対応も医務では大切な仕事と認識している。

通院については内科が半減しているが、これはインフルエンザ罹患者が1名に抑えられたため、予防接種、感染予防対策の徹底による効果と考えられる。

(2) 課題とその対応について

高齢化の進むかいぜ寮では、常に医療が必要となる利用者が増えている。そして一度医療に繋がると完全治癒は難しく、長期に治療を受けることになる。どんな治療を受けるのか、患者が選択できる時代ではあるが、利用者の意思をどのように汲み取っていくのが大切になってくる。家族、後見人に現状把握をしてもらい、的確な医療が提供できるよう努めている。そのために有益となる情報や資料を準備することも必要である。さらには、高齢利用者の生活を見直し、残る人生の過ごし方を選択できるようなサービスを調整することも急務と認識している。

医療の必要な利用者が年々増えている現状で、協力医療機関である豊郷病院の存在は大きい。身近に利用者の特性を理解して受け入れてくれる医療機関があることは大変心強く、日々の安心につながる。今後も豊郷病院との連携を大切にしていきたい。

6. 給食

利用者の高齢化・重度化に対応するために、栄養ケアマネジメントを強化し、栄養ケア会議を定期的に行っている。昼食を中心に栄養士が時々調理師と共にミールラウンドを行うことで、実際に利用者の摂食状況を知り食材の形状等見直すことができた。多職種できめ細かく食事摂取状態を把握し、改善点を整理して利用者の健康上の問題点や、食環境についても話し合い、医師のアドバイスをいただきながら改善してきた。また、週に一度利用者朝礼で食育を実施し、利用者からリクエストメニューを聞き、地産の旬の食材等も取り入れながら献立に反映している。

食事形態

主食/副食	主 食		副 食				割合
	おかゆ	軟飯	ペースト食	刻み食	粗刻み食	普通食	
男子	1名	3名	1名	2名	7名	17名	37.0%
女子	3名	1名	2名	5名	6名	6名	68.4%

※ 副食の割合とは普通食以外の食事を提供している利用者の割合をいう。

摂取栄養量

	エネルギー (Kcal)	たんぱく質 (g)	脂質 (g)	カルシウム (mg)	塩分量 (g)
基準量	1750	50.0	45.4	600	9.0
かいぜ寮平均	1744	70.3	45.1	566	8.4

相談支援事業所かいぜ寮事業報告

1. 総括

湖東地域の計画相談支援は、サービスの利用希望者が100パーセント利用できることを目標にかかげ、ほぼ達成できたと言ってよい状況にある。ただ、利用者、利用希望者は年々緩やかな増加傾向にあり、毎年1～2名の相談支援専門員が新たに仕事を始められるようになってきて、新しくサービスの利用をしたいと願う方にまんべんなく計画相談支援が入るようになるには、まだまだ人的な課題がある。

高齢になり、介護保険ならではのサービスに移行していかれるケースも少しずつ見受けられるが、費用の問題やケアマネとの連携（それぞれのサービスや出来る範囲の違い、障害特性への理解）など、少しずつ学び合える環境を作ってはいるものの、各ケースを通じて探り探り行っているのが現状といえる。高齢化問題は、各通所サービス事業所にとっても喫緊の課題となっており、自立支援協議会でもいくつかの部会で取り上げられている。

どこともつながっていない、引きこもり状態にある方についてのご家族からの相談といった「障害者」という枠で収まらない相談や、サービスとサービスの隙間の時間の過ごしなど、既存の計画相談支援だけでは解決が難しいケースも出てきており、相談支援専門員同士の横のネットワークや、社会福祉協議会、ハローワークなど多機関での連携や情報交換が必要となっている。今後も、社会状況により障害児者やその関係者を取り巻く問題について、いっそうの他機関との連携や相談支援のスキルアップが求められるだろう。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 他機関と連携しつつ、利用者、家族理解に努め、虐待防止に継続的に取り組む

地域で、障害児を育てる家庭に、定期的にサービスについてのモニタリングの機会を持ち、訪問することでご家族の思いを聞き続けることができるのは、相談支援専門員の役割と認識し、サービス提供事業所への訪問や、そこで見聞きした子どもの成長などを伝えたり、家での様子を事業者へ伝えたりと、子育てを応援するチームの一員として関わり続ける必要性を感じている。今後も、継続して関わっていききたい。

また、知的、精神障害をもちつつ子育てをされている当事者家庭へも、訪問等しながら子育てや地域でのしんどさを聞かせていただくことで、負担感の軽減を目指しているが、聞き取った内容によっては地域資源や社会福祉協議会、福祉サービスにつなげられるよう、普段からの情報収集が必要と感じている。

「かいぜ寮」入所者については、年に2回の個別懇談に出来る限り同席し、ご家族の近況やご本人への思いを傾聴することを心がけている。

(2) 多様な相談に対応できるよう、研修や他業種交流に積極的に参加する。

令和2年3月31日までの研修、他業種との交流事業への参加状況は以下のとおり。

参加月	内容
7月	滋賀県障害者差別のない共生社会づくり条例フォーラム
8月	発達障害の理解を広げるための滋賀県民講座2019
	湖東地域障害者雇用を考える連絡会 企業見学会

9月	滋賀県発達障害者支援センター公開講座（10月）
10月	精神・発達障害者しごとサポーター養成講座
	児童虐待防止関係者研修会
	高次脳機能障害支援センター研修会
11月	滋賀県障害者虐待防止・権利擁護研修会
	法人内虐待防止役職員研修
	高次脳機能障害支援センター支援専門研修（現任研修）
1月	彦根市子ども・若者支援地域協議会における支援に携わる人材養成のための講習会（2月は新型コロナ感染防止策により会議を休止）
	愛荘町福祉機関地域連携会議（2、3月）

※湖東地域障害者自立支援協議会行動障害部会は、事務局として参加。

※湖東地域障害者自立支援協議会地域移行部会（施設ワーキンググループ）に参加。

※強度行動障害支援者研修にファシリテーターとして参加。

※他業種交流として、「湖東地域こころのケアチーム」（世話人：南彦根クリニック 上ノ山院長）の事例検討会に参加。

令和元年度 計画相談支援利用者内訳

（令和2年3月31日現在）

	かいぜ寮 利用者	グループホーム 利用者	つばきはら含む 地域利用者	計
彦根市	23	2	69（12）	94（12）
豊郷町	3		9（3）	12（3）
愛荘町	6	1	31（20）	38（20）
甲良町	2		4（1）	6（1）
多賀町		2	4（1）	6（1）
東近江市	5	1	1	7
近江八幡市	3		1	4
日野町	1			1
京都市	1			1
計	44	6	119（37）	169（37）

※（ ）内は児童（再掲）

※就労継続支援B型利用にかかるアセスメント利用者含む

令和元年度 障害者相談支援事業（市町からの委託事業）実績

	彦根市	豊郷町	愛荘町	甲良町	多賀町
障害者	56	9	13	5	4
障害児	6	1	8		
実人員計	62	10	21	5	4
件数	165	30	73	28	7

1. 総括

利用者の状況については、6月にそよかぜ利用者1名退所され、定員11名中10名（サンコスモ滝井：5名、そよかぜ：5名）の方が利用されている。10月から入居希望の方1名が体験利用されている。年齢層も幅広く、加齢による身体状況の変化があり、肥満傾向の方も多し。生活習慣病予防への対応など健康管理において、看護師や医療機関などと連携をとる事が年々増えている。利用者の自立支援や高齢化の対応については、関係機関など地域との連携が求められており、引き続き柔軟な支援体制の構築が必要となっている。

また世話人についても、平均年齢（約70歳）が高くなってきており、サンコスモ滝井の1階に支援員室を改修し2階へ行く負担軽減の措置をとった。しかし業務内容等の見直しの他、バックアップ体制など安心して働ける職場環境・体制構築が必要となっている。

2. 重点課題に取り組んだ事項

(1) 利用者理解を深め、虐待防止に取り組み、権利擁護意識の浸透を図る。

法人虐待防止研修に参加し、世話人会議で個別支援計画を共有・協議している。また、世話人が日ごろ利用者の様子から疑問に思う行動に対しては、サービス管理責任者や支援員が、障害の特性をわかりやすく説明するなど学ぶ機会を設けている。「滋賀県虐待防止・権利擁護研修」に参加したことで、権利擁護意識の向上につながった。

(2) 家庭的で温もりのある暮らしを提供できるようにする。

居室の清掃や整理整頓が苦手な利用者には、過ぎしやすいように支援員と一緒に実施した。ホーム周辺の除草作業を随時行い、防草シートを設置したことで景観維持にもつながった。食事は今年度より食材宅配業者の献立に変更した。世話人の手作りで利用者個々の健康状態や嗜好に配慮しながら、温かい食事を提供した。また、帰宅時間が合わない時もあるが、食卓を囲み、世話人とのやりとりを楽しみながら家庭的な雰囲気の中で食べることができた。

3. 入居者の状況

(1) 援助内容

① 具体的内容

(生活環境)

各居室の清掃・整理整頓は、できる限り利用者本人で行ってもらうようにした。居室の備品や衣服等の購入や破棄などは、本人や家族と相談しながら対応した。

ヒートショック対策として、脱衣場に暖房器具の設置を行った。

(保健衛生)

起床時に体温・血圧（特定の利用者のみ）・体重測定（月1回）を行い、毎日の体調の把握に努めている。体調不良時には看護師と相談し、必要に応じて医療機関を受診した。利用者によっては通院に同行し、連絡ノートを利用するなど家族と連携をとった。

(食事)

今年度より、食材宅配業者に変更した。食材宅配業者の栄養士の献立を参考に、利用者の嗜好や健康状態に配慮して提供した。利用者の半数以上が生活習慣病の予防など健康管理が必要になってきている。

(余暇)

利用者の年齢や趣向の違いもあり、両ホームで合同での（イベント等など）余暇活動への参加は難しくなっているが、個々の利用者の状況に合わせ、相談員とも連携をとりながら、移動支援など他の事業所のサービスを利用できるよう調整し、支援員と相談して定期的に外出を計画して実施した。

月 日	内容	場所	参加人数	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
5月 4日	喫茶外出	ユトリ珈琲	2	0
5月19日	彦根学園祭	彦根学園	4	4
6月 8日	かすみ会まつり	かすみ会	4	4
7月 6日	スペシャルスポーツ カーニバル	長浜ドーム	3	2
9月28日	どんぐり秋まつり	どんぐり作業所	2	1
10月19日	オレンジリボン たすきリレー	彦根ビューホテル	0	2
12月19日	クリスマス会	各ホーム	5	5
12月31日	年越し夕食	サガミ	2	0

②社会参加について

月 日	内容	場所	参加人数	
			サンコスモ滝井	そよかぜ
4月 7日	滋賀県議会議員選挙	肥田町公民館	2	1
4月20日	彦根市市議会義委員選挙 (期日前投票)	稲枝支所	2	1
7月21日	参議院議員選挙	肥田町公民館	2	1
10月20日	三津町民フェスタ	草の根広場	3	4
11月 9日	かすみ会物故者法要	こもれび	3	2

③地域生活、職場における問題への対応について

作業所との対応は、日中活動の様子やホームでの様子、帰省時の様子など連絡ノートを活用し、状況によっては直接電話連絡で情報共有を行った。また、企業就労している利用者は、会社と連絡を取り合い、本人の状態を伝え、対応にあたった。

④相談

利用者から職場やホーム内での人間関係、外出予定、家庭における困り事などの相談は多岐にわたる。普段の関わりの中で、相談を受けた世話人は、支援員、サービス管理責任者に口頭もしくは業務日誌等を通して報告をし、共有するようになった。

⑤個別支援計画

利用者個々の受給者証の更新の時期に合わせて、個別支援計画の見直しを行った。また、サービス等利用計画との整合性や利用者のニーズに基づいた支援内容となるように計画をたてた。

⑥家族・後見人等との連携

利用者ごとに連絡ノートを準備し、帰省時には、ホームでの様子などを記入し持ち帰ってもらい、帰省中の様子を記入してもらい連携をとった。また個別支援計画のモニタリング等に合わせ個別懇談を実施し、家族の意向や状況など確認する機会を定期的に設けた。

(2) 世話人について

毎月、ホームごとに世話人会議を開催し、利用者に関することや業務に関することなど情報や課題の共有をし、協議する機会を設けた。

(3) 障害者への理解促進のための見学、学習機会の提供

社会福祉士実習生や新任研修の方が見学に来られたが、実習以外では今年度は見学等の依頼がなく実施できていない。

(4) 防災・防犯について

防災対応マニュアルを基に、避難訓練（火災訓練 2 回。水害訓練 1 回）を計 3 回実施した。

避難の際、歩行が不安定な方には車いすを使用して安全に避難できるようにした。

外部からの不審者対策として、防犯カメラや人感センサーを設置し、防犯対策を行った。

つばきはらファクトリー事業報告

1. 総括

(1) 就労移行支援事業

就労アセスメントは、9名の利用があり、圏域での期待は非常に高い状況にある。

就労移行事業については利用者が少ない状況であったが、当所の就労継続支援B型から移行し、トライアル雇用につなぐことができ、次年度は利用者が2名増える予定である。

※ 重点課題に取り組んだ事項

①一人でも多くの方が、一般就労できるように支援する。

内容：千松の郷で見学後、1ヵ月実習を行った。

結果：利用者が2月16日から特別養護老人ホーム千松の郷で1ヵ月実習を行いトライアル雇用された。仕事が続けられるように支援をしている。

(2) 就労継続支援B型事業

利用者は減少したが、一人当たりの利用日数が増えたため、延べ利用者数は若干増えた。利用者一人ひとりの特性を理解しながら、本人の力が発揮できるように声掛けや提示を行い、利用者の能力に合わせて作業を提供し利用者ができる力を引き出した。品質を高め、請負先に喜んでいただき少しでも工賃向上が図れるように努めた。また、研修を行い社会的な力が身に着けるように支援した。行事を行い、利用者同士の交流の促進を図った。

※ 重点課題に取り組んだ事項

① 利用者がやりがいをもって仕事ができるように支援する。

内容：利用者の特性を理解するため、昼礼や職員会議で情報共有し連携しながら支援を行った。

(i) 作業工程を分けて、利用者の能力に合わせて作業提供を行った。

(ii) 写真などを用いて、醤油やなちゃっぷ、バリ取りなどのマニュアルを作成した。

(iii) JSSJの新しい品番の作業をわかりやすくするために、部品を品番ごとに色で提示したり、組み立て部品を写真で示すなど工夫をし作業台を作成し作業しやすい環境を整えた。

結果：利用者の特性を踏まえながら支援することで、大きなトラブルもなく、作業に向かえるように支援できた。マニュアルを作ることで、利用者が自分たちで行えることが増えた。また、シートベルトの組み立てでは、作業量を増やしてもらうため多種品番を受けることになったが、提示をわかりやすくすることで、新しい作業を早く慣れることができ、品質も維持できた。

② 一般就労に必要な力をつけられるように支援する。

内容：ハローワークが主催するジョブガイダンスや働きたいを応援する会が主催する企業見学会に参加した。アビリンピック滋賀（障害者の職業技能の大会）に3名が参加した。特別養護老人ホーム清水苑で約1ヵ月の実習を行った。

結果：所内では経験できないことを経験でき、企業就労の意欲を持ってもらうことができた。

1名の利用者が当所の就労移行に移り、トライアル雇用された。

③ 工賃向上を図る。

内容：効率性の高い作業にシフトしていく。

くすかみの贈答品のタオルの箱詰めは、一年を通して好調だった。就労収入の6割を占めるJSSJのシートベルトの組み立てが、10月くらいから旧タカタのエアバック問題の影響で新規の仕事を受けられず収入に影響が出た。

結果：就労収入は減少したが、経費削減の効果で利用者の工賃は前年度より少し延ばすことができた。

(3) 就労定着支援事業

就労定着支援の利用者は昨年より2名増え、安定して就労できるように努めた。

※ 重点課題に取り組んだ事項

① 利用者が安定して就労できるように支援する。

内容：個別支援計画を作成し面談し、月に1回以上の会社への訪問や面談を行った。

(i) 会社からの相談を聞き、関係機関との連絡調整を行った。利用者のニーズを伝え、会社からの要望を本人に伝わるように支援した。

(ii) 相談事業所と連携しながら、生活習慣を整えるため福祉サービスを受けてもらえるように支援した。また、グループホームの利用者は、ホームと連携しながら支援を行った。

結果：本人の思いを受け、会社や関係機関と連携を図ることで、3名の利用者が継続して就労できている。

(4) 共通

人材育成を行い、より良い支援を行う。

※ 重点課題に取り組んだ事項

内容：①個別支援計画の時にKJ法を使って、本人の良いところを支援者で共有を図った。

②法人の全体研修に参加するとともに前年度の法人研修で行ったアンガーマネジメント研修の再確認をした。また、県の虐待防止研修に職員1名が参加した。

③滋賀県社協で行われたチームリーダー研修やサビ管更新に参加した。

④北星養護学校の見学会や労働部会で行われた施設見学会でjob lead ひこね芹川ホームに職員1名が参加した。

⑤ステップアップ21で行われた若手連続セミナーに参加した。

⑥つばきはらファクトリー内で、発達障害の支援に詳しいjob leadを講師に招き研修会を行った。

結果：個別ケースを検討する中で、職員それぞれの意見が出てきて利用者理解が少しずつ深まり共有が図れた。法人研修や事業所内研修を行うことで、職員全員が同じ研修を受けることで、それぞれ理解したことの共有が図れ、研修内容が深められた。

外部研修に参加したり、他の事業所の見学を行うことで、いろいろな手法を考え方を知る機会になり、利用者支援の幅が少しでも持てるようになった。また、研修を通じて他の事業所との交流があり、情報交換の場になった。復命を行い、職員の共有を図った。

2. 就労アセスメント状況

甲良養護学校 5名、愛知高等学校 1名、長浜北星高等養護学校 2名、その他 1名 計 9名

3. 就労に向けて支援

(1) 就労の状況

月 日	場 所	人数
2月16日	(社福)日野友愛会 特別養護老人ホーム 千松の郷 (トライアル雇用)	1名

(2) 利用者研修

月 日	内 容	人数
6月12日	健康に関する研修会	21名
6月25日	食と食品衛生研修会	21名
7月16日	消費者トラブルに関する研修会	23名
8月12日	交通安全研修 講師 滋賀県交通安全協会	17名
8月30日	企業見学会 場所 サニーリーフ クレール	2名
9月17日	ジョブガイダンス	1名
10月5日	アビリンピック滋賀オフィスアシスタント 場所:ポリテクカレッジ滋賀	3名
2月3日	お掃除研修会 講師 ダスキン野田山支店	18名

4. 就労支援事業活動について

(1) 委託業務 (請負)

	請 負 先	内 容
下請け	弘陽工業株式会社	ボルト組み立て・袋詰め・検品
	株式会社くすかみ	タオル箱詰め・検品 検針
	J S S J株式会社	シートベルトの部品組み立て
	株式会社トコロ製作所	ナットの切粉取り・検品
	水谷醤油醸造所	醤油フタ閉め・検品
製造	稲枝商工会	なちゃっぷ製造
メンテナンス	聖泉大学	清掃作業
	かいぜ寮	清掃作業
	歯ブラシ定期交換サービス	歯ブラシの梱包・名づけ・販売 (代理店:ステップアップ21)
	古紙回収	ダンボール回収 (かいぜ寮 聖泉大学など)
	農業組合法人ファームかいぜ	苗箱洗い

(2) 自主製品販売

品 目	販 売 先
和っふる	美浜館・あいしょう館

5. 苦情処理・事故について

事故報告	3件	公用車による物損事故
------	----	------------

6. 行事

月日	内 容	利用者参加
4月9日	お花見 場所 ヴォーノ・イタリア 庄塚公園	21名
5月14日	利用者旅行 場所 京都鉄道博物館	17名
10月22日	バーベキュー大会	19名
12月21日	クリスマス会・忘年会	19名
1月6日	初詣 場所 多賀大社	21名

7. 避難訓練

実施日	訓練内容	参加状況	
		利用者	職員
5月27日	消火・通報・避難	22名	9名
6月18日	水害訓練	23名	8名
10月23日	消火・通報・避難	19名	7名